

1 FD講演会開催報告

2018年2月21日(水)16:00~

テーマ「中身はさておきやり方をみがく～大講義でのアクティブ・ラーニングの実践例、または、アクティブ・ラーニングをうさんくさいと思っていた私の変心～」

講師：市野 泰和 経済学部教授



参加者67名

私は、2017年8月26日、9月23日、10月28日に行われた、全国大学実務教育協会の「能動的学修の教員研修リーダー講座」に参加しました。この講座は、受講者どうしのグループワークを通して、アクティブ・ラーニングの意義と技法、授業デザインの方法を習得するためのものでした。

私がこの講座で学んだのは、アクティブ・ラーニングと通常の講義をアクティブ対パッシブという見方で対比するのは間違いだということです。アクティブかパッシブかはどうでもよくて、大事なのはラーニングです。学生が何かを学び、身につけるのであれば、そこには必ず学生の自主性・主体性が伴います。つまり、ラーニングというのは本質的にアクティブです。したがって、通常の講義がよくないと言われるとき、それはパッシブだからよくないのではなく、それがラーニングになっていないからよくないのです。

このような理解のもと、私は、2017年度後期中級ミクロ経済学でアクティブ・ラーニングを取り入れました。中級ミクロ経済学は、抽象度の高い議論を演繹的に進める、「積み上げ式」の科目です。そこで、受講生が論理の積み上げ過程を正確にたどれるよう、3つの基本方針を立てました。それは、(1)学生と教員の間でやりとりをする、(2)学生どうしの学び合いを促す、(3)多様な学びの機会を与える、の3つです。これらの方針に沿って、おもに次の3つのアクティブ・ラーニングの技法を導入しました。それは、(a)リアクション・ペーパーを使った学生と教員のやりとり、(b)オーディエンス・レスポンス・システム(ARS)を使った問題出題とピア・インストラクション、(c)予習動画を使った反転授業、の3つです。

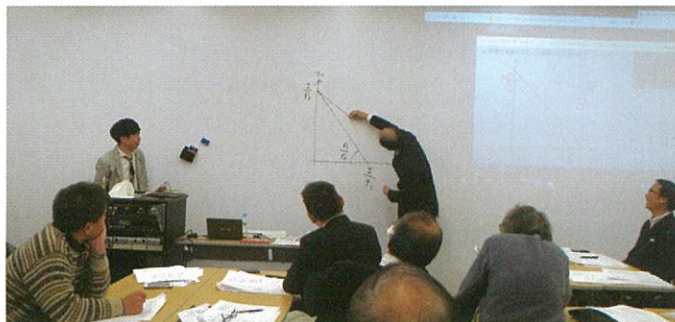
(a)については、毎回の授業の終わり5分で、「もっとも重要だと思ったこと」「よくわからなかったこと」をリアクション・ペーパーに書かせました。そのような振り返りをしていな

かった昨年度と比べて、今年度の授業では、要点を理解したうえでの発展的な質問が多くなり、授業後に質問に来る学生も増えました。なお、リアクション・ペーパーには、質問に回答をつけて学生に返却しています。

(b)については、無料のオンラインARSアプリであるClicaを使い、授業時間中に選択問題を出しました。受講生は個人で答えを選び、スマートフォンで自分の答えを投票します。クラス全体の解答分布を見たあとで、学生はペアを組み、自分の答えをお互いに説明しあい、二人の答えを一致させたいうで、その答えを再度投票します。そうすると、ほとんどの問題で、ペアでの話し合い後の解答のほうが個人での解答よりも正答率は高くなります。話し合いを通して学生たちの間で気づきや発見があり、それが理解の深化をもたらしたのだと私は考えています。

(c)については、Office Mixという、パワーポイントに付加するアプリを使って10分程度の予習動画を作成しました。授業では、その予習動画を全員がすでに見たものとして、講義はせずに、いきなり、(b)の技法を使って問題演習を行いました。予習動画による反転授業をすることで、アクティブ・ラーニングをするために講義でカバーできる内容が少なくなってしまうという問題を解消することができます。

このように並べてみると、アクティブ・ラーニングは教員にとってしんどいだけのようにも見えます。しかし、そうではないと私は思います。通常の講義では、どれだけ中身をおもしろくしたつもりでも、つまらなそうだったり、スマートフォンで遊んだり、寝たりする学生が出てきます。そのような相手に話をし続けるほうが精神的にはしんどいことです。100名を超える受講生たち、学力も興味の度合いも体調も異なる一人ひとりに、講義をするだけで主体的な学びを促すのは困難です。アクティブ・ラーニングの技法は、そのようなしんどさ、困難さを軽減してくれるものなのです。(市野泰和)



2 2017年度文学部授業公開

2017年度の文学部授業公開は、11月27日(月)から12月8日(金)の予定で始め、実際には12月15日(金)まで延長した。まず実際に私が参観したなかから、阿部真大先生の「現代家族論」について述べたい。また、文学部FD委員(かつ文学部教育検討委員会委員長)として、文学部の組織的な取り組みについて触れたい。

阿部先生の講義は、大きく2つのパートに分かれていた。

前半では、「時事ネタ」として熊本市議会において母親が子どもを連れて議会へ出席する事に関するニュースを取り上げ、Yahooニュースのコメント欄をどう読むのかという解説を加えたものであった。大多数のコメントが反対意見であるものの、なぜ反対しているのかという背景に立ち入った分析を阿部先生が示された。「バックラッシュ」「近代家族の成立」「同調圧力」「トーンポリシング」「正義の暴走」などの用語を交えながら、各々の反対意見が女性の社会進出に対してどういった距離感にあるのかが非常によく分かる解説であった。講義のテーマである「家族」に関して、社会学者がどうデータ

を読んでいくかという正攻法の教授方法を、身近な事例から学生に分かりやすく伝える講義手法だと感じた。

また、後半は演劇を見る中で家族やフェミニズム、ジェンダーについて考える講義であった。演劇をみる前に、あらかじめ介護やDV、再生産労働における生きがいの搾取など、様々な論点を解説していたため、演劇を素材に種々考えさせられる講義となっていた。観劇終了後には、さらに突っ込んだ解説がなされ、女性の労働についての理解が深まった。

総じて、現代社会に対する阿部先生の「読み解き方」を披露する中で、社会学の重要な概念を理解し、社会をどう見るかという学生の視点を涵養する講義だと感じた(学生が取り組むことのハードルを高くすることなく)。

なお文学部では、1月10日(水)に「授業公開に関する報告会」を行った。授業参観者の意見や感想に対し、授業担当者が応答する形で意見交換を進めるとともに、出席者との意見交換も交えつつ、授業における取り組みについて共有を図った。

文学部教授 東谷 智

3 学習支援デスクを開設



5号館3階のサイバーライブラリにて

教育学習支援センターでは、2017年10月から学習支援デスクの取り組みを開始しました。この学習支援デスクは、5号館3階のサイバーライブラリに設けられたスペースで教員が自由に学生の質問を受け付けるものです。

内外の先進的な図書館環境を紹介した加藤氏によると[1]、学習者が能動的に協働作業を行う場であるラーニング・コモンズに求められているものとして、1.コンピュータ・ワークステーション・クラスター、2.サービスデスク、3.協同学習スペース、4.プレゼンテーション支援センター、5.FDのためのインストラクショナル・テクノロジー・センター、6.電子教室(PC教室)、7.ライティングセンターなどアカデミックサポート部門、8.ミーティング・セミナー・パーティ・プログラム・文化活動向けのスペース、9.カフェおよびラウンジエリアという9つの構成が示されています。今回の学習支

援デスクは、5号館を一つの大きなラーニング・コモンズという枠組みで考えたときに、学生の学習環境として補強が必要である部分、すなわち、2.サービスデスク(学生の学びに関する質問を何でも聞く)、4.プレゼンテーション支援センター(プレゼンテーション資料の作り方や発表の仕方に関する質問に答える)、7.ライティングセンター(レポートなどの書き方の質問に答える)などアカデミックサポート部門の機能について、各教員の持ち回りで支援を行うものです。

10月に開始した当初は、教育学習支援センター所長、副所長、参与の3教員が週に3日間開催していました。その後、有志の先生のご協力を得ることができ、現在5名の教員が週に1回ずつ担当しています。それぞれ、60~90分程度の割り当てで、「学習支援デスク」の看板の前のカウンターに座り、学生からの自由な質問を受け付けています。

例えば経済学部のある先生の担当した11回の「学習支援デスク」開設時に34人の学生が質問に訪れ、小テストやレポート、授業内容に関する質問と解説が行われました。学習支援デスクの取り組みに興味を持っていただける先生がいらっしゃいましたら、ぜひ、教育学習支援センターにお声がけください。

[1] 加藤信哉(編集)他『ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち』勁草書房、2012。

教育学習支援センター所長 高 龍秀

4

2017年度講師招聘による授業実施報告

教育学習支援センターでは専任教員が担当する科目の専門性と社会との関係を語ってもらうことを目的としてゲストスピーカーを招く講義を実施しています。2017年度に実施された講義は下表のとおりです。

学部等・センター名 科目名 講義担当者 実施日 参加人数	講義報告
知能情報学部知能情報学科 「パターン認識」 田中雅博先生 6月7日 60名	パターン認識とは何かということ、具体的な顔認識から話を切り出してわかりやすく説明し、また、所属する会社において、どのような製品に組み込まれているのか、紹介があった。Google、YouTube、ニコニコ動画、facebook、ツイッターなど学生が興味を持つサービスに絡めながら、大変上手な講義の展開が行われた。また、最近非常に脚光を浴びているディープラーニングなどの話も盛り込み、非常に新鮮であった。受講者の感想を読むと、実世界で利用されていることが実感できたということで、非常に良い反応であった。
知能情報学部知能情報学科 「オペレーティングシステム」 渡邊栄治先生 7月3日 80名	(株) イングージ 和田哲也様に、「IT業界に25年・起業までしたから言える、今やっておくべきこと」という題目にて、学外招聘講義を実施して頂きました。本学 OB として、ゲーム会社、在米メーカー勤務、会社独立の経験に基づいて、学業や進路に関する助言を頂きました。受講者のレポートから、「ソフトウェア開発における基礎的な知識」や「起業の大変さや海外で仕事をする楽しさ」が、受講生に十分に伝わったことが伺えます。
理工学部生物学科 「生物学専門実験及び演習Ⅳ」 今井博之・西村いくこ先生 1月9日 約60名	昨年度に引き続き、不可能と言われた青いバラの開発に挑戦している興津氏を迎えて、「もっと青いバラの開発へ向かって」という演題で講演をしていただいた。生物学科3回生に対しては、遺伝子組換え技術や細胞生物学の学習効果が認められたほか、キャリアパスの情報収集にも役立った。また、この講演会には生物学科4回生や自然科学研究科の大学院生も多数参加して、予定時間をオーバーするほど活発な討論が行われた。
理工学部物理学科 「自然科学リサーチ・ 物理学リサーチ」 梶野文義・青木珠緒先生他 11月10日 約70名	本学OBに社会で働くことに本学での学びがどのようにつながっていくかお話しいただき、学生の学問への動機付けを補強することを狙いとしている。今年は大学院物理学専攻出身の久保田氏に、等身大の「働くこと」「働くことと大学での学び」に関して話していただいた。三年生はこれから進路をしっかりとかためなければならない時期でもあり、真剣な質問が多数出た。在学生にとって進路と学びについて真剣に捉える良い機会となった。
教職教育センター 「教職実践演習(中・高)」 藤原健剛先生他 12月11日 62名	40分の授業を見学し、導入・展開・まとめの流れ、それぞれの段階での発問、板書、問題解決的な学習法を学んだ。その後、学生との質疑応答、田中スーパーティーチャーからの授業技法等の話があり、体験的で、より具体的に、現場の教育に触れることが出来た。「教職実践演習」の集大成として、ベテラン教師からの生きた声は、学生たちに強い印象を与え、今後の発展へのステップとなったと考える。
経営学部経営学科 「流通システム論」 加茂祐子先生 7月21日 195名	流通の主要機能の一つ「商流」機能とその法的背景との関わりについて知見を深めた。また、ネット取引が急速にしつつある今日、消費者が被りがちな様々なリスクについて具体的な事例も挙げて説明を受けるとともに、リスク回避策や万一の場合の対応方法について、消費者としてまた事業者としての心得を学んだ。
人文科学研究科人間科学専攻 「芸術と福祉」 服部正先生 6月22日 8名	創作活動に特化した先進的な活動を行う知的障がい者のための福祉事業所・社会福祉法人素王会アトリエ インカーブ(大阪市)の三宅博子氏を招聘した。講義では、福祉施設が障がいのある人をアーティストと理解して、作品を社会につなぎ、市場につなぐことで、従来の支援する/されるという福祉の関係性を超越することができるということを学ぶとともに、障がい者に対して持っていた固定的なイメージを考え直す契機となった。
文学部人間科学科 「演習Ⅰ・Ⅱ」 富樫公一・大澤香織先生 7月6日 25名	山口県済生会豊浦病院の臨床心理士中谷先生を招聘し、「子育てをする女性臨床心理士～地方で生きるということ」というタイトルで、地方、専門職、女性、子育てをキーワードに、卒業を控えた学生らが自らの将来設計を描く機会を提供することを目的とした。その結果、4回生ほど、女性の問題を身近に感じていた反面、男子学生の意識があまり高くはないとの印象を受けた。今後、男子学生を対象にこうした企画の実施が重要に思う。
スポーツ・健康科学教育研究センター 「基礎スポーツ健康科学」 鶴木千加子先生 7月12日 38名	基礎スポーツ健康科学に、車椅子バスケットプレイヤーである草間智氏を招き、障害をもつ方がスポーツ活動を行う実状について伺った。また、車椅子ツインバスケットボールの体験も行った。障害をもつ人が親しんでいるスポーツは、障害のためにできないことがあったり、安全上問題があるためにルールを少し変えているだけであり、健常者がスポーツを行うことと同じ部分も多いことに気づいた者が多かった(コメントペーパーより)。
スポーツ・健康科学教育研究センター 「基礎体育学演習」 鶴木千加子先生 9月16日 5名	基礎体育学演習に、兵庫県ボッチャ協会から原田浩明氏をむかえボッチャを行った。重度の障害をもつ人も参加できるスポーツとして作られたボッチャは、用具の工夫により誰もが一緒にゲームを実施することができる。今回の授業でも、障害の有無にかかわらず一緒にゲームを楽しむことができた。障害をもつ学生は実施可能なスポーツに取り組み機会を得たと同時に、出席者全員がスポーツの多様性について理解を深めることができた。

5 2017年度FD委員会活動報告

2017年度甲南大学FD委員会の主な活動：○新任教員研修会実施(4/4)○FDシンポジウム開催：「経済学ベストレクチャー事例発表」(6/7 経済学部共催)○FD講演会開催：大講義でのアクティブ・ラーニングの実践例(2/21)○全学共通授業改善アンケートの実施及び集計・分析○FD委員会開催：各学部・研究科・センターの活動報告を情報共有し、今後のFD活動のあり方を検討○「甲南FDニュースNo.19」の発行、等

《各学部・研究科・センターからの主なFD活動報告》

〈文学部・研究科〉

○授業改善を図るための取組：授業公開(11/27～12/15)及び授業参観に基づく意見交換会の実施(1/10)。1年次配当科目でフィードバック型授業の実施。人間科学科専攻で教員と大学院生懇談会実施。等

〈理工学部・研究科〉

○授業改善を図るための取組：物理学科授業参観(6/27)及び授業検討会(6/28)。生物学科授業参観(4/6他全6回)及び意見交換。機能分子学科安全講習会(4/20)。FD活動の組織的取組：教授会後にFD懇談会を開催(9/25)「各学科でのアクティブ・ラーニングの紹介」、各専攻における高圧ガス等の安全講習会及びFD懇談会の実施。等

〈経済学部・経済学専攻〉

○授業改善アンケートに基づいた取組：ベストレクチャーシンポジウム開催(6/7)○プロジェクトゼミ参観(7/8)○拡大FD委員会(9/6)：専門科目の基礎科目の教育内容の共有について。FD委員会(9/20)：科目の新設に伴うカリキュラムマップ及びツリーの変更について等○大学院授業改善アンケート実施。等

〈法学部〉

○法学部独自の授業アンケート実施(5/29～6/9、10/16～10/27)○授業参観実施(6/26、11/29)及び授業参観検討会実施(6/27、12/5)○法学部FD懇談会開催：基礎演習のあり方について(9/26)。等

〈経営学部・経営学専攻〉

○授業改善を図るための取組：授業参観実施(5/17、12/8)及び授業改善検討会開催(5/17、12/18)・「基礎演習」における講義の聴講・経営学部生へのアンケート実施(7月)及び検討会(12/18)・大学院授業改善アンケート実施(7月)・大学院授業参観実施(7/5、12/7)及び大学院授業改善検討会開催(7/18、12/18)○BPコースインターンシップ成果報告会開催(1/27)○アドバイザーボード会議開催(3月)。等

〈知能情報学部・知能情報学専攻〉

○授業の改善を図るための取組：学業不振者への特別指導検討会(4/25)、授業改善の取組について意見交換会(7/11)「アドバンストプログラミング演習」にて授業評価アンケート実施(7/21)及び検討会(9/28)・大学院FD懇談会：前期授業改善アンケート結果の検討。等

〈マネジメント創造学部〉

○FD研修会：(7/19) 2016年度アンケート結果に基づく授業改善について、(1月)2016年度アンケート結果に基づく授業改善について(予定)○FD Lunch meeting：(6/28)教育方法の

改善について、(7/12)授業改善アンケートの改善について、(12/13)初年次教育について、(1月)授業改善について学生と意見交換会。等

〈フロンティアサイエンス学部・研究科〉

○授業改善のための取組：平成28年度学部講義のうち、学生アンケートの評価が高かった講義の意見交換会(9/4)○授業の質保証の取組：学部および研究科の全科目の講義及び定期試験問題を教職員に公開。専任教員が担当する全科目で教員間相互授業確認研修(T-Learning)の実施。学部・大学院で専任教員が担当する専門科目に関して、習熟度を確認するための用語集と設問集に基づく試験の実施を図る。大学院授業改善アンケートの実施。等

〈国際言語文化センター〉

○授業改善を図るための取組：5月中旬～6月及び10月中旬～11月 公開授業の実施。(9/22、9/25)学生の評価が高い授業の見学及び(9/27)授業改善のための意見交換会言語教授法・カリキュラム開発研究会：(6/24)「大学教育におけるアクティブ・ラーニング」、(11/25)「北米の多文化共生社会の現状と未来」。等

〈教職教育センター〉

○授業改善を図るための制度的取組：(7/24) 2016年度後期授業改善アンケート結果に基づく、解決のための工夫などについて意見交換会。(11/6) 2017年度前期授業改善アンケート結果に基づく、解決のための工夫などについて意見交換会開催。等

〈スポーツ健康科学教育研究センター〉

○授業改善を図るための制度的取組：全開講科目において授業公開。6月に「スポーツ健康科学研究会」を開催。アクティブ・ラーニング報告に基づく、次年度以降の基礎体育学演習及び生涯スポーツ科目におけるテキスト内容の改訂について検討。等

〈共通教育センター〉

○カリキュラム委員会開催(4/11他全8回)：共通基礎演習の内容及び教授方法、改善点について検討。2018年度基礎共通科目におけるIT基礎科目の見直しに関する検討。授業改善アンケートの分析結果に基づく意見交換。等

〈法科大学院〉

○授業参観実施(6/5～6/17、11/20～12/1)：参観報告書の作成・意見交換会実施○授業アンケート実施(6/19～6/24、12/4～12/9)：全科目対象。集計結果に基づき意見交換会を実施。担当科目においてコメントを作成、学生へフィードバック○年間通じ2コマ分以上のオフィスアワー○司法試験合格者に対する無記名授業評価アンケート実施、授業改善に活用。等

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

大学トップ ▶ センター・研究所・図書館 ▶ FD—甲南大学のFDへの取り組み—

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。

教育学習支援センター事務室 TEL078-435-2592(内線2812)

MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp